―― 後輩の皆さんへ応援メッセージ ――

4年次生の〝就職活動〟体験記

小林　主尚さん

都合により写真は掲載いたしません

経済学科、徳田賢二ゼミ＝ホーチキ

大きな不安とともにスタートした就職活動。私が最初に頼ったのは、就職課でした。合宿研修や内定者懇談会を通じて、就職活動に取り組む姿勢や、準備を整えることができました。

一番つらかったのは、「エントリーシート（ES）ラッシュ期間」の2、3月です。徹夜でESを書き上げて翌朝説明会に参加。しかし不採用メールの嵐で、肉体的にも精神的にもつらい時期でした。

そんな中で、夜遅く帰宅した私のために、一人分のご飯を炊いて待っていてくれた母。決して「がんばれ」とは言わず、陰ながら支えてくれた家族はとても心強い存在でした。週に一度は必ず遊びに連れ出してくれ、合否結果は自分のことのように受け止めてくれ、励ましてもくれました。

成長支えてくれた家族や友人に感謝

こうして迎えた第一志望企業の最終面接。そこで言われた衝撃の一言は、「筆記試験は受験者の中の最低点」。その時は落胆と焦りを感じましたが、内定をいただくことができた今では、私が22年間「何を感じ、何を思い、何を考え、成長してきたか」を高く評価していただけたと感じました。その成長を支えてくれたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。これからは防災業界という立場から、人々の安心と安全を守るよう精いっぱい努力していきます。

長浦　仁美さん

都合により写真は掲載いたしません

法律学科、中川敏宏ゼミ＝加藤産業

就職活動を始めた当初は、右も左もわからず内定など取れるのかと不安に感じていました。そこで意識したのは、食わず嫌いをせず、少しでも興味を持ったことに対して行動することです。

不安だからこそ、何が自分を不安にさせているのかを考え、常に行動していました。3年次の10月から就職課を利用し、世の中にはどんな業界、企業があるのかを調べ、学生就職アドバイザーの方に実際の就職活動の体験談を聞くことで、就職活動に関する知識を増やしていきました。

また、学内の就職支援プログラムにもできるだけ参加し、準備を少しずつ重ねました。12月には多くの企業を同時に知るきっかけとなる合同企業説明会や、単独の企業説明会にも進んで参加し、自分が知らない企業の多さに驚き、それらを知ることに喜びを感じました。

第一印象は3秒！明るい挨拶で勝負

閉じこもらずに行動し続ける、そうすることで今まで気づかなかったことにも気づき、世界が広がります。その日その日の目標を立て行動し続けてください。無駄なことは一つもありません。

就職活動中は多くの人とお会いする機会がありました。今までは意識してこなかった言葉遣いや立ち居振る舞いなど、自分がどのように他人から見られているかを考えるきっかけになりました。

何より大切なのは元気な挨拶です。挨拶ができるかできないかで大きな差が生まれます。第一印象は3秒で決まると聞きました。明るい挨拶を心がければ道は開けると信じています。頑張ってください。

神原　慶子さん

都合により写真は掲載いたしません

経営学科、大柳康司ゼミ＝NTTタウンページ

私は就職活動をぼんやりと始めました。特別な経験もなく、自分を必要としてくれる企業があるのか不安でした。まずたくさん説明会に行き「お目目キラキラ」を徹底しました。効果は2つあります。

一つは相手に興味を持てることです。正直、説明会は疲れますし興味が持てないこともあります。しかしボーっとしていてはもったいないです。興味を持って聞くと（自分に）合っている企業かもしれないという気付きがあります。もう一つは好印象を与えられることです。多くの人の目は疲労でどんよりしています。ここで差別化ができます。「目をキラキラさせて最後に質問にいく」。これで完璧です。

また、たくさんエントリーシートを出し可能なら限り選考を受けました。そうすることで自分の興味ややりたい仕事を知り、自己分析と企業を選ぶ際の軸ができました。

行動し経験豊かに　自分を知り自信を

面接では経験以外に、なぜそう思うか？　と「なぜ」を連発され質問されます。自分を理解していないと答えられません。

私は選考を受ける中で成長したと思います。面接官の厳しい言葉で面接が怖くなったこともあります。しかしなぜそう言われたのかを考え、弱点を見つけ改善する練習をし克服しました。苦手を克服する、自己分析と志望理由、企業研究をとことん詰める、直接見に行くなど行動する…面接以降はこの繰り返しです。

それは自分らしく自信を持って話すための準備です。自分らしさを120％発揮できた人が内定につながります。今皆さんにしてほしいことがあります。いろいろ経験してください。そうするとより自分を知り話せるネタが増えます。一石二鳥です。気軽に楽しく就職活動準備をしましょう。

イラスト／渡辺正義

吉田　亘さん

都合により写真は掲載いたしません

マーケティング学科、赤羽新太郎ゼミ＝ロッテ

就職活動を通して、最も重要だと感じたことは〝自分自身〟について深く掘り下げ、しっかりと向き合うということです。これは就職活動を終えた現在も続けています。

就職活動を始めた当初、医療や商社、IT系など160社を超える企業にエントリーしていました。しかし、私には以前から「社長になりたい」という夢があったため、実際には、経営に関する知識を身につけることができるコンサルティング業界にしか興味がありませんでした。

そのことを就職課のスタッフに相談したところ、「将来社長になりたいのなら、そこから逆算して現在の自分に必要なことを考えなさい」とアドバイスをいただきました。それから一層、自己分析に励み、今までの経験から何を培ってきたのか、現在の私を形成しているものは何かという観点から、自分自身を見つめ直しました。

「社長になる」夢叶えるための活動

そして、キャリアプランを設定し、将来のために必要なスキルを身につけることができ、なおかつ、現在の私の強みを発揮できる企業という「選社軸」を持つことができました。

このように、就職活動では、就職課のスタッフや先輩、友人など、周りの方々が全力でサポートしてくれます。そのサポートに感謝しながら、自らの足を使ってさまざまな場所へ出向いてください。自らの足を使って得た情報は自分だけの情報であり、他の就職活動生と差別化を図ることができます。そして、何よりも就職活動そのものを楽しんでください。

熊　頼加さん

都合により写真は掲載いたしません

日本語日本文学科、大浦誠士ゼミ＝共同印刷

2011年3月に採用選考活動の早期開始自粛が発表され、メディアによる「就職『超』氷河期」の報道に、私はいち早く危機感を覚えました。

大学3年次の夏にはインターンシップに参加したり、ゼミの先輩から話を伺ったりと、周囲に先立って就職活動を意識してきました。この経験から「就職活動は行動した分だけ結果となって返ってくる」ことを得ました。

「足で稼ぐ」――結果はついてくる

一つ目に重要なのは、企業の情報はとにかく「足で稼ぐ」ことです。無名の企業や商品名しか知らない企業でも、説明会に参加してみれば意外に良かった、という体験が多々ありました。私の場合、特に1月から4月の間は、ほぼ毎日どこかの企業の説明会・選考に参加していました。各所に足を運ぶことでチャンスが増え、企業にも顔を覚えてもらえます。

二つ目は、SPIの勉強をしっかりしておくことです。多くの企業は選考時に筆記試験を課します。どんなにその会社に入りたくても、点が取れなければ落とされます。事実なので書きますが、専大の学生の上にはさらに学力の高い学生が何千、何万と控えています。では、どうすれば彼らと同じ土俵に立てるのか。それは彼ら以上に勉強するしかありません。

換言すると、SPI対策をしっかりやっておけば、大企業に就職できる可能性が十分あるのです。だからといってESをおろそかにしては本末転倒。事前に就職課や周りの人に添削してもらうことをお勧めします。

一度きりの人生です。ぜひ、悔いのない就職活動をしてください。

佐藤　大卓さん

都合により写真は掲載いたしません

ネットワーク情報学科、佐竹弘靖ゼミ＝朝日放送

「自分の土俵で」

この言葉を後輩のみなさんに応援メッセージとして送ります。私が内定を取れたのは、「自分の土俵で」面接ができたからだと思っているからです。

私は専修大学に入学して、就職支援プログラム「アナウンサー講座」で3年間、人間力に磨きをかけてきました。同じ夢を持つ学生と一緒に勉強して、講師の山本勇先生と若林健治先生に、社会人としての「いろは」を学びました。

「飾らない自分」で面接を楽しもう

志望はテレビ局だったので、大学3年次の8月ごろから本格的に就職活動が始まりました。セミナーやフォーラムで「就活友だち」を増やし、エントリーシートを見せ合ったり、飲み会を開いて夢を語り合ったりしました。

その甲斐あって試験もいいところまでいったのですが、最終試験やその手前で落とされる状況が2カ月くらい続きました。

私が苦しんでいる時、講座でお世話になっている山本先生に「自分の土俵で勝負しなさい」と声をかけていただきました。この言葉で私は吹っ切れ、内定を取ることができました。

自分を飾らずに、うそをつかずに、面接官と面接を楽しむことができれば、内定が取れると実感できました。その場限りの付け焼き刃や自分を良く見せようという気持ちは、面接官に見抜かれてしまうと思います。

後輩のみなさんにはぜひ、「自分の土俵で」面接を楽しんでほしいです。これが内定を取る一番の近道です。

応援しています。